

原子力発電所内焼却炉との違いについて

	原子力発電所内焼却炉 (柏崎刈羽原子力発電所の例)	鮫川村仮設焼却炉
焼却炉能力、タイプ	150kg/時 ; 固定床炉	199kg/時 ; 傾斜回転床炉
焼却対象物	原子力発電所の管理区域内での施設運転、維持管理、補修等により発生する可燃性の廃棄物 ・雑固体廃棄物(ポリエチレン、紙、木材等) ・廃油 ・使用済樹脂 等	村内の広範囲で生じた事故由来放射性物質により汚染された可燃性の廃棄物 ・稲わら ・牛ふん堆肥 ・牧草 ・落葉 ・庭木・立木 等
焼却対象物の汚染レベル	(設計ベース)平均200万Bq/kg	最大3万Bq/kg程度(ほとんどが8,000Bq/kg以下)
主な汚染核種	・コバルト60、セシウム137(粒子状物質) ・ヨウ素131,133 ・希ガス	・セシウム137とセシウム134のみ(粒子状物質)
焼却炉設置場所	・原子力発電所全体の様々な場所から生じる汚染物を処理する恒久的な施設 ・一連の管理区域の建屋内に設置	・汚染物の処理が終わるまでの期間限定の処理を行う仮設施設であり、屋外設置
排ガス処理	焼却炉排ガス→セラミックフィルタで集じん→外気を給気して排ガスを冷却→HEPAフィルタでろ過→管理区域建屋の換気と混合(焼却炉排ガスが約20倍に <u>うすめられる</u>)→排気筒→ <u>モニタリング(放射線量)</u> →排出	焼却炉排ガス→冷却→バグフィルターで集じん→ <u>モニタリング(ばいじん濃度)</u> →HEPAフィルタでろ過→ <u>モニタリング(ばいじん濃度)</u> →排出
排ガス測定	年1回 ダイオキシン、Nox、Sox、ばいじんを測定	月1回以上 ダイオキシン、Nox、Sox、HCl、ばいじんを測定
負圧管理	施設全体が負圧管理された管理区域内に設置	排ガス処理系を含めた焼却炉内は、緊急時にも負圧を維持